

聖マリアンナ医科大学病院における医療従事者業務負担軽減計画 令和6年度（2024）版

病院勤務者の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み

番号	項目	具体的内容
1	特定看護師・診療看護師による特定行為実施	・医師業務負担軽減への貢献度が高く、法人全体でのNPの需要が高いことから、計画的な増員と配置診療科の検討 ・診療看護師・特定看護師の臨床研修の実施と修了後各科診療科への出向により医師の業務負担軽減につなげる
2	看護師による医療行為の実施	・性別を問わず尿道カテーテル挿入できる看護師の育成の拡大の継続 ・静脈注射の実施（こどもセンター） ・胃管カテーテル抜去
3	救命外来による包括指示による実施	救命外来における実施内容の明確化と実施に向けた整備
4	病棟における事前指示での実施	・患者に対する包括指示に基づく薬剤投与 ・低血糖時に手順書に基づいた看護師によるブドウ糖投与
5	看護補助者の活用	・日勤帯の補助者業務内容の見直しと看護師業務負担軽減の実施 ・看護補助者へのシフト可能な業務内容の明確化と手順・マニュアルの整備・療養生活援助の教育
6	看護記録の業務の効率化	①入院支援介入困難者への対応検討 ・外来との連携による介入件数の増加 ・担当看護師の退出勤務継続 ②記録の効率化（テンプレートの作成・修正）
7	メッセージ業務の拡大	・新病院移行におけるメッセージ業務の変更見直しに伴い、業務内容の拡大・柔軟な対応
8	搬送ロボットの導入による業務改善	搬送ロボットによる薬剤・血液製剤等の搬送業務改善
9	病棟における内服薬の簡易懸濁の導入	薬剤部での散剤準備の負担軽減として、病棟での簡易懸濁法による投与の実施
10	特定行為研修修了者が包括指示のもと、代行オーダーする	特定行為研修修了者（全行為研修者・認定看護師B課程修了者）セット化した検査、処置、薬剤オーダー
11	看護師が事前指示従い、NIPPV(非侵襲的陽圧呼吸)装着を実施	医師が事前指示を出す事により、NIPPVの装着を看護師が実施する初回でなく、2回目以降とする
12	小児科に夜間補助者配置	小児入院管理料に伴い、夜間補助者配置することで、看護師、家族の負担軽減
13	保険薬局からの疑義照会件数の減少	保険薬局からの疑義照会情報を共有し、医師にフィードバックするなどし、疑義照会による医師の負担軽減を図るとともに、リスク現象につなげる
14	ERへの薬剤師配置	ERに薬剤師を配置し臨床業務を実施
15	入退院支援センター薬剤師業務の充実	介入患者数の拡大
16	緊急使用薬等処方薬請求に関する負担軽減	ロボットおよび気送子配送、配置薬の充実等により、薬剤部への医薬品請求負担を軽減する
17	休日対応臨床薬剤師の配置	休日の薬剤関連相談応需、持参薬確認、服薬指導の実施
18	画像センターへの薬剤師配置	放射性医薬品の調製・管理等
19	HBV(B型肝炎ウイルス)スクリーニングのPBPMプロトコルの実施	HBVの再活性化を防止するためのPBPMの開始
20	手術室におけるPCA処方代行入力PBPM(プロトコルに基づく薬物治療管理)の実施	PCA（患者自己調整鎮痛法）を術後使用する予定がある患者に対する処方の薬剤師による代行入力を実現するPBPMの開始
21	抗がん剤の薬剤部における調製範囲の拡大	放射線科で実施していた動注レジメン調製を薬剤部で実施する

聖マリアンナ医科大学病院における医療従事者業務負担軽減計画 令和6年度（2024）版

病院勤務者の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み

番号	項目	具体的内容
22	予約入院患者における栄養スクリーニングの実施およびアレルギー情報の取得	栄養スクリーニングの実施により、入院時より適切な食事提供を行うまた、アレルギー情報の取得により、入院初日より安全な食事提供を行う今後、新電子カルテにて、入院初日から栄養部でのアレルギー項目の代行入力方法を検討する アレルギー情報を含め、入院時から適切な食事提供が行えるシステムを検討する
23	検査後食・透析延食の導入	衛生面の問題、食事の無駄削減のため、検査にて定刻に食事がとれない患者に対して、検査後食を提供する 検査後食は簡易的な食品などで構成されており、看護師の食事提供の負担軽減となっているため、新病院でも継続する新病院での透析患者の延食提供について検討を進める 検査後食・透析の延食とも、対象者の抽出方法、食事入力方法を検討する
24	適正な人員確保	新病院での管理栄養士の病棟配置に向けた人員増員
25	管理栄養士の病棟配置	管理栄養士を病棟に配置し、当該病棟の入院患者の食事管理および栄養指導を行う病棟担当の管理栄養士は予約外入院患者の栄養スクリーニングを実施する
26	栄養食事指導の代行入力	入院診療計画書の中の特別な栄養管理の項目に必要時、栄養食事指導の介入いたしますの文言を追加栄養食事指導が必要な患者に対しオーダーを代行する
27	嚥下食のお茶	嚥下食のお茶は病棟スタッフにてとろみ剤にてとろみをつける運用を食事時に3食お茶ゼリーの配膳の実施を行う
28	栄養情報提供書の作成	入院時の栄養管理についてや経腸栄養の種類、速度等、転院先に情報提供を行う
29	栄養情報連携の作成(旧栄養情報提供書) (2023年②に準ずる)	転院する患者に対して栄養情報提供書の運用をしていたが、2024年6月の改定により今まで必須であった栄養食事指導がはずれ、栄養情報連携料となった今後必要場患者を抽出し作成する栄養についての退院サマリーに活用
30	365日体制検討	365日体制に向け2FQ命エリアと8FSCUで7日/週りハを試行し、対象病棟拡大に向け新人教育状況や算定状況の調整を図る
31	新入院棟歩行補助具の管理	・輸液ポンプ等の医材料はCE部で一括管理となっているが、車椅子・歩行器などの移動・歩行補助具は各病棟管理で、空き状況や貸借管理が不透明 ・看護部・就労支援室・ムトウなどと協力して調整・管理する
32	血液浄化装置の操作を安全かつ適切に実施する上で必要となる血液浄化に用いるバスキュラーアクセスの状態についての超音波診断装置を使用した確認	血液浄化に用いるバスキュラーアクセスの機能維持のためのエコー等による評価
33	臨床工学技士の当直要員の増員	当直者が増に伴い、指導者も増えるためより一層進めていく貴重な症例について各部署協力し指導にあたる
34	ITを活用した医療機器の活用	QRコードをCE管理機器に貼り付け、取扱簡易マニュアルや操作説明動画に容易にアクセスできるようにする新規購入機器から順次運用を開始していく中央貸出機器に拡大していき、CE管理機器すべてに対応する 対象機器を増やす準備を進めて、CEで作成しアップしていく
35	臨床工学技士のロボット手術（脊椎）立ち合い	脊椎手術に使用する手術支援ロボットを操作して術者のサポートを行う
36	臨床工学技士による血液浄化装置の先端部のバスキュラーアクセスへの接続	シャントなどバスキュラーアクセスへの穿刺および接続を行う
37	IVRセンターでの業務拡大	小児心臓カテーテル、下肢末梢血管カテーテル治療での医療機器の操作および記録を行う
38	補助人工心臓（VAD）への対応	VAD管理チームの一員として、装置の対応および管理を行う

聖マリアンナ医科大学病院における医療従事者業務負担軽減計画 令和6年度（2024）版

病院勤務者の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み

番号	項目	具体的内容
39	検査技師による病棟採血	病棟に検査技師を派遣し採血業務を支援する
40	採血に伴う静脈路確保、電解質輸液の接続、抜針、止血	法改正により可能となった業務である内視鏡検査時に検査技師が携わることで医師、看護師の業務負担を軽減することが可能となる 臨床検査技師による静脈路確保等を実現するためには厚労大臣指定の研修会を受講する必要があるため、今年度も研修会受講の推進を継続し目標実現を目指す
41	持ち込み画像情報の取り込み、照会先へのCD作成部門の設立	医師がスムーズに画像データを読み取りできるように持ち込み画像データのPACSへの取り込み、紹介先へのCD作成業務等専門で行う部門を設置する
42	放射線被ばくの説明と相談	医療被ばく事例報告書を作成 低被ばく化を促進 装置の更新が待たれるまた撮影時のX線条件(管電圧、付加フィルターなど)を再検討中 機器更新の進捗により、達成されることを期待する
43	放射線治療センター業務でのタスクシフト・シェア	全脳照射、および乳房温存療法での位置決め、アイソセンター設定での医師立会い 初回照射時のリニアックグラフィーの一次確認IGRTの一次照合
44	透視室業務でのタスクシェア	イレウス管、十二指腸チューブ挿入における医師と協働した調整操作
45	法改正による業務拡大の実現	法律施行令の一部改正で業務範囲の見直しが行われ、可能となる業務が拡大された 告示研修が始まったので、受講を推進する 画像センター内の業務体制の見直しを検討する
46	本館CT室マネージメント業務の改善	本館CT室のマネージャーには毎日100本以上の緊急依頼等の電話が入ってくるそれだけでなく4つの検査室の状況を把握して割り振りし、病棟検査の受付業務(カルテ、ID、問診票などの確認)を兼務していた その病棟検査の受付業務は画像受付事務に委託した次は緊急単純検査専用PHSを事務側に設置することで、マネージャー業務の軽減、更に「検像」業務が早まることで画像情報の正確さと緊急性のある画像情報の早期報告が期待できる
47	CDR作成時のオーダー改善 (マニュアル入力から検査一覧選択への移行)	CDの出力依頼のオーダーで行っているが、医師に問い合わせをしている CD出力が、医師の手入力ではなく、モダリティ・検査日時等の一覧があって選択できるようなオーダー画面があれば、業務が円滑に進む
48	小児心臓カテーテル検査でのポリコーダー操作	小児の検査においては、今まで放射線技師がポリコーダーを操作していたが、CE部の協力をいただき、その業務を担当していただけることになった
49	法改正による業務拡大の実現 タスクシフトによる業務拡大	救命士部会にて実施可能な行為を策定 各個人がその内容を遵守し、円滑に業務を遂行する ホットラインを応需し、救急外来のブースコントロールを行う 救急隊からの申し送りを受け、内容を電子カルテに記載する
50	医師の負担にならない紹介患者受け入れのスムーズ化	紹介患者の受け入れルールを診療科と調整して、対象の診療科を増やしながら、専用電話回線にて医師を介さず紹介患者をスムーズに受け入れる
51	急性期転院調整	当院の差額室料の支払いが困難、かかりつけの病院へ転院、早期の手術が必要、高齢者疾患などの早期転院調整を行い、効率的なベッドコントロールを実現する
52	紹介状事前スキャン	紹介患者の予約取得時に紹介状をスキャン取込する

聖マリアンナ医科大学病院における医療従事者業務負担軽減計画 令和6年度（2024）版

病院勤務者の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み

番号	項目	具体的内容
53	紹介状事前取り寄せ	紹介状を診療日より事前に入手できるようクリニックに連絡を入れる
54	急性期転院調整	当院の差額室料の支払いが困難、かかりつけの病院へ転院、早期の手術が必要、高齢者疾患など、早期転院調整を行い効率的なベッドコントロールを実現する
55	手術室麻酔科医師の実施入力業務補助	手術部業務の効率化のため、医事課保険請求経験者を手術室に派遣し、実施登録画面での麻酔方法、麻酔使用薬剤、保険算定術式等の入力業務の補助をおこなう 今後も麻酔科医師の負担軽減と、手術部に医事課職員が伺うことでコミュニケーションが取れ、診療報酬改正時などに変更点を伝えていく
56	医師事務作業補助者の充実	15対1加算算定のため増員が必要であるため人数を増員し、医師の事務負担軽減を行う 医師事務負担軽減には、医師事務作業者が代行できる業務が多いため、業務の種類を増やし、人員確保と作業場所の確保を進める
57	電話予約変更センターの業務見直し	予約日変更について手術や検査など患者さんの病態によって変更不可のものもあり、新外来棟移転時までに見直しをする 新電子カルテシステムの運用検討、業務を継続する
58	医師の外来診察補助業務の拡大	初診時紹介状の代行入力を行う（診察前又は診察後の入力）また、脳神経内科の神経学的チャート所見の代行入力を行う
59	紹介状の初回報告書作成業務の拡大	MSCより届く紹介状初回未作成リストに医師事務が対応していない9診療科へ介入し下書きを作成する
60	電話予約変更センターの業務見直し	各診療科のローカルルールを減らし統一出来るものは統一一元化を行い担当者が効率良く作業を行う新外来棟に向けて行う
61	文書センターを設立し新外来棟への移行	全診療科の書類受付を担い窓口を集約することで受付の対応が軽減する
62	特定ドライブ及びGoogleフォームを用いた各種事務手続きの電子申請及びデータの一元管理	申請書類の作成・提出・管理・通知等の業務効率化を進める管理状態をみえる化して、最新情報に到達しやすい環境を整備する 登録医勤務実績の自動集計 病院HP更新申請の電子化 主要会議議事・院内保育所資料 各種資格データの一元管理（麻薬施用者免許） 拾得物及び遺失物データ管理 院内掲示データの一元管理 院内文書の一元管理
63	大学病院ポータルサイトの利用拡大 院内掲示物の管理	院内掲示物の管理を電子化して、可視化する今年度は、外来診療が大学病院本館から外来棟に移行するのにあわせて、管理方法を見直す 教職員から依頼される短期的な掲示物では、手続きの簡略化を進める 病院が発信する医療法や機能評価で必要な掲示物については、何が・どこに・いつから掲示されているかを一元管理する
64	患者・家族への周知	・夜間の専門医非対応、複数主治医制の導入、診療時間内の受診やインフォームドコンセントへの理解を院内及びホームページで周知する

病院勤務者の勤務状況の把握等

聖マリアンナ医科大学病院における医療従事者業務負担軽減計画 令和6年度（2024）版

病院勤務者の負担軽減・処遇改善に対する具体的取り組み

番号	項目	具体的内容
	勤務スケジュール（シフト表）の管理	B水準施設のため、事前に勤務間インターバル確保や公休日・宿日直の日数の確認が事務的に必要となる シフト作成者の補助となるようなシフト表（統一フォーマット）を作成する